

# HOUSE OF THE POMEGRANATE



ニューヨークの有名な舞師、ピナ・バウシュの最新シーズン開幕を飾ったのは、注目の新進画家、ペリンダ・イートンの個展だ。この個展には「House of the Pomegranate (ザクロの家)」というタイトルがついている。

「ザクロの家」展は、ペリンダ・イートンが1984年にニューヨークに移り住んで以来、下掛けた作品を集めたものだが、作品そのものはペリンダ個人のビジョンであり、過去の生活、そして現在の生活を彼女なりに解釈したものだ。彼女は、初期のルネッサンス芸術、アフリカや東方世界の芸術、原始的なタペストリー、それに中世のイルミネーション（頭文字、ページ、写本などに施された装飾）に強い影響を受けている。そのことは、彼女の作品を見るときわかるだろう。「ドランプ」の絵のモチーフ、そして、彼女の作品を通して登場する迫力ある、ちよっと怖ろしい人物のモデルは彼女自身だ。彼女は自分の面にさまざまな表情を写しこみ、ゆがめたりして登場人物を生み出し、いろいろな物語を編んでいくのだ。

「私は原始的な芸術のもつ無垢な心を表現したいのです。それは何もし、原始主義」というような大げさなものではなく、フォルムとモチーフを通じて、初期の絵画の精神を現代美術に継承させる、ということですよ。彼女の作品は、ニューヨークのアートシーンに斬新な風を吹き込んでいます。作品は、大きな、引っ張られていないキャンバスに掛かっています。

DOME GALLERY  
578 Broadway, New York, NY 10001 2,  
☎ 212-226-5068

